日本女医会誌
復刊第14号

日本女医会第八回総会を迎えて

佐藤やい

去る六月十六日（日）十七日（月）の二日間に亘り、昭和三十八年度日本女医会定時総会が開催された。これを中心としてその前後にオスロで開催される国際女医会出席の打合せ会及び評議員会総会後の懇親会と多彩な会合が手ぎわよく能率的に開催された。これひとえに役員一同の御協力は申すに及ばず、特に地元の福永ひろ子姉（加多乃会員）の多大なる御尽力により懇親会場を箱根にお選びいただいたおかげであります。全国からお集りの会員諸姉も箱根の空気を満喫されて何よりの収獲があったことかと存じます。今年は例年に比べて各地区より多数の出席者があり、日本女医会の今後のあり方、又は国際女医会に対する活潑なる御意見をうかがい、本会のため、非常に参考になる点がが多々あったことを感謝したい。なお、本会誌に掲載された通り各地区にも特殊性をおびた女医であって、始めてなし得るかくれた仁術を施されている方が多々ある事と存じますので、何卒奮って記事を本部に御送り下さるようお願いします。我々は日進月歩の医学を攻究すると共に大いに医人としての修養を高め、社会の一員として貢献致し度いと切に希望する次第であります。

評議員会記録

阿部秀世
小俣喜久子

第八回総会当日至誠会本部会議室（六月十六日午前十一時より午後一時）において評議員会を行なった。

通信発送数、一一二、出席者、三十七名、委任状、四八通、評議員会成立。

佐藤会長挨拶につづき庶務報告（森理事）あり。

常任理事会十四回、理事会五回、編集会、渡航打合せ会、会食会（椿山荘、玄海、日活ホテル、その他）

住所移動届数　八十六件。

物故者十名に対し黙禱。（伊藤尚子、楊節子、紫藤三代子、飯塚しゆく、小島拡子、本間富貴、松山みどり、栗山一枝、長谷都、鈴木みし）

六　月　日本女医史刊行、希望者に発送する。

九　月　第七回日本女医会総会施行。

十一月　イラン国（カジミ女史来日）

〃　英国（クロス女史来日）

〃　イスラエル国（フランケル女史他一名来日）

十二月　米国より、八名、来日。

〃　英国より、エートケン女史（前国際女医会々長）他二名来日。

十二月二十九日　マニラ国際女医会総会に、小野春生団長十八名参加出発。

一　月　欧洲より八十余名の女医団来日、日活ホテルにて歓迎会を行う。

四月一日　第十六回日本医学会総会開催を機会に大阪府医師会館にて日本女医会懇親会を行う。

会計報告（佐藤イクヨ理事）

特に支出の部では、本年マニラ総会開催を機会に大勢の外人客の接待のため、臨時費として約五〇万近く支出されているが、マニラ会議に参加された会員からの寄附金もあり、渉外費の一部にあてられたとの説明が加えられ、昭和三十七年度決算及び資産負債並びに昭和三十八年度予算も異議なく承認された。

次に議題について。

日本女医会の今後のあり方について。

佐藤会長より日本女医会をもっと魅力のある会になるよう、皆様より有形、無形に役立つことがあったら御意見を発表してほしいとの挨拶あり、大村理事より、来年度のオリンピックの中に割りこんでいきたいということ、医師会の中に乗りこむ案もでていること、日本女医会総会を地方でやりたいという大きな希望を全員が持っているので、その方も考えたい。なお、会誌の方ももっと充実したものを出したい等の司会発表があった。

山本杉氏　医師会にはオリンピックで救護の方を受け持ちたいと申しこんだところ、これは大変よいアイディアといわれているので、何とかなるだろうと思う。日本女医会をもっと魅力的なものにするため、最近よくいわれているチャリティーショーについて、一考を要するのではなかろうか。

橋本氏　山本先生がおっしゃったように医師会に一つ部屋をもつということは今後のことに対して大変よいことと思う。また、日本女医会の資金をつくるためにチャリティーも大いに利用していくよう考えたらよいと思う。

中村氏　魅力あるものにするための一言として、日本医師会の役員が本会より何人位でているか。日本女医会は女としての立場があると思うし、女としての働き方があると思う。そこで女医としての良さ、魅力はどこにあるか？あくまで婦人の指導的立場にいなければならない。そして医術以外の女としての家庭教育の面にまで指導的立場を持たねばならない。その点、龍先生の肢体不自由児事業も最もよき事と思う。との発言あり。野呂理事から恒久的に育児教育相談はむづかしいが、もう少しイージーにやっては如何か。団地を相手に厚生省あたりと協力して現在愛育会でひばり団地についてやっているが、日本女医会としても、このようなことをしては如何か。

山本杉氏　愛育会の院長をはじめ、その中の方々が研究所をつくって広い範囲の仕事で、女医と協力したいという考えがおありならお話ししても…。

佐藤会長　女医の団体として医療方面の仕事が最も特殊性のあるものと思う。小児相談室のことなども、すでに常任理事会で問題になっているが、事務所その他のことで保留のままになっている。会員皆々様の御意見を伺って善処していきたい。

山本杉氏　日本女医会としても一つの仕事があった方がよいと思う。

佐藤会長　オリンピックの問題も大変よいといわれて結構だが、受け入れ態勢を考えておかねばなりません。

山本理事　この話は東知事、小林氏とに話をしてあるが、まだ具体的な話までにはなっていないので御承知下さい。

なお、小野春生氏より簡単に国際女医会報告あり。

佐藤会長　各支部に出むいて支部の基盤をつくることはやっているが、このような御意見も伺っていきたい。

川那部副会長　大阪支部のことにつき、福井繁子先生が逝かれて、自分は副会長と支部長をかねている。大阪では多くの会員あり、地域を考えて十のブロックに分けて新しい力がもりあがってきている。支部長を格上げして貰いたいとの発言あり、佐藤会長より全国支部並びに支部会員数の説明があり、大阪は東京につぐ大きい会員数である。十ブロックより一名づつの支部長が選出されて、日本女医会の評議員となられる。このようにしたらうまくゆくと思う。

神奈川県、愛知県、京都、静岡等の会員数に対しても考え、総会を通して定款をきめてはとの三神理事の発言もあったが、地方は県単位となっているので、ただ了解さえあれば定款をかえる必要なし。このことで賛否の結果、大阪の十支部承認に対し全員賛成。

なお、次期総会開催地は役員改選期でもあり、東京で行ってはどうかとい

う意見あり。神奈川県、愛知県のこえもあったが総会にて検討することになった。会誌についても地方会員のことにつき書いてほしいとの要求あり、日本女医会バッジのこと等の質問あり。会長よりよくデザインも考えなければならないし、できるだけ御意見に添いたいとの返答があった。

午後一時閉会、昼食をすませ総会にうつった。

第八回日本女医会総会

中西清子
亀井照子

第八回日本女医会総会が六月十六日午後二時より、東京女子医大新講堂において行われた。総会通知発送数、三五五〇、出席人数、一三七名、委任状一三五二通によって総会成立。大村理事司会によって会が次の順序で始められた。

一、会長挨拶　司会　大村ひさゑ
一、庶務報告　佐藤　やい
一、会計報告　森　千鶴
昭和三十七年度決算報告
昭和三十八年度予算報告　佐藤イクヨ
一、議　題
日本女医会の今後のあり方
国際女医会の件　小野　春生
その他

佐藤会長挨拶＝本日第八回日本女医会総会の開催出来ます事は、皆様と共に喜ばしい事と存じます。ことに今回は新入会員も御参会頂き、今後本会のため、一層の発展が予想されることと思います。本会は、日本唯一の女医の団体として国際的にも重要視されております。御出席の会員は青森県、長崎県支部等遠隔の地域より、はるばる参会されましたという事は、これひとえに会員の皆様方の御熱意の現れと存じ大いに感激致しております。

→（総会々場風景故吉岡前会長の写真がかけられている女子医大新講堂）

今春、全国の医科大学及び医学部を有する各大学の学長、厚生補導部長に依頼し、今年度新卒の方々に入会をおすすめしたところ、二四七名の新卒業生中、四七名が入会されました。（内訳、東京女子医大四一名、名古屋医大二名、神戸医大一名、大阪医大二名、北海道大学医学部一名、計四七名）本日は、内二〇名の新入会員を御迎え致しましたので本会の創立当時をいささか申上げ度いと思います。

本会は明治三十五年創立以来、六十有年を経過し、当初は吉岡弥生先生を始め、大阪では福井先生、東京では前田竹内、井上、定方、杉田、多川先生方の御協力はなみなみならぬものがありました。支部所は故杉田田鶴子先生の一室があてられ、日本女医会誌をも出版されておりました。現在の国際女医会は、当時万国女医会と称しており、日本女医会にも会議への招聘があり、故吉岡会長、井上友子先生、現副会長定方亀代先生等の御出席もあり、その他欧州留学中の方々が、その都度出席されることもあり、日本女医の意気を示して下さいました。

その後、大東亜戦争のため、約十四年間は中絶状態となり、昭和三十年終戦後約十年にして再発足する事となりました。

すでに、日本全国にわたり約一万人以上の女医を有し、これをまとめるため、我々の大先輩及び鶴風会（旧帝国女子医専同窓会）加多乃会（旧大阪女子医専同窓会）至誠会（旧東京女子医専同窓会）が主となり、日本女医会の団体的組織の下に結成致した次第であります。

会長、副会長は総会において選出し、各都道府県に支部をおき、支部長は評議員となり、重要問題は評議員会総会にかけて決定致しております。本部は当分の間、至誠会本部に置いてあります。

更に昭和三十五年、正式に国際女医会に入会し、すでに多数の会員が出席されております。

本会は、新旧会員が一致相協力され益々時代にふさわしき日本唯一の女医の団体として発展される事をねがう次第であります。次に、大村氏の発言により議長を会長に推薦、つづいて森千鶴氏より庶務報告、佐藤イクヨ氏より三十七年度決算報告、三十八年度予算の説明あり、総会で異議なく承認されました。

次に議題について。

一、日本女医会の今後のありかたについて

会長＝オリンピックに何かの協力をしたらどうか、との問題が出ておりますが、参議員として種々の場面に御関係深い山本杉先生の御意見を伺いたい。

山本杉氏＝今後具体的に考えたいと思う。

二、日本女医会事務所の件

会長＝日本医師会館内に置かして貰ったらという発言がありましたが、これは如何でしょうか。

山本杉氏＝現在では、それはむずかしいが、努力してみたいと思う。

三、各支部に対して本部よりの応援

会長＝各県の支部を何等かの形で応援してほしいとの提案に対し、討議の結果、

① 日本女医会誌に支部活動状況を記載する。

② 日本女医会として母子衛生、その他厚生省に残っている問題をとりあげて実行にうつして行く事などが話された。

四、大阪支部の件

川那部喜美子氏＝大阪支部の会員は非常に多いので十のブロックにわけて、そのブロック長を評議員にして頂きたい、との発言に対し、評議員会と同様了承された。

五、昭和三十九年度の本会総会の開催地について

会長＝来年は役員改選の年でもあるから、それを考えに入れて場所を選んでは如何と思います。

次に小野氏が日本女医会に対する今後の希望についてアンケートをとるためにプリントを配布され、一同記入提出した。

山崎倫子氏＝只今配布されたアンケートのうち①より④の項を実行してゆくために、日本女医会が幾分かの収入を得るように収益のあがる事業でも行ったら如何でしょう。

服山氏＝若い方に一年なり二年なり外国に留学させてあげる事ができるようにしたら、若い方達ももっと入会されるのではないかと考えます。

会長＝大層結構な御考えと思い余すが、まだ本会の経済的現状においてま裕がありませんので、ただ今の所は不可能と思います。

国際女医会の報告

小野春生氏＝マニラでの国際女医会で今までの一人分の会費百円が弐百円に値上げされました。（国際女医会々費送金の件については、日本女医会の会員が、約三六〇〇人であるが、会費負担の関係上、考慮の上決定する事とします。）

なお、来年の国際女医会はオスロで六月二十四日よりひらかれ、日本女医会から四十二名参加の予定です。昨年の国際女医会はマニラであり、親教育という演題がとりあげられ、日本女医会から思春期の子を持つ親教育が充分行われていないという事を報告した。印度では医師が一般の教育にまで働きかけているとの事です。スエーデン、アメリカ等でもやはり医師が出張して性教育の講演をしており、特にそれには女医が力をかしているとの事です。その他のくわしい事については、会誌に記す予定です。なお、昨年暮より正月にかけましてマニラの国際女医会出席の外国女医が百余名、日本を訪問されたので、定方、中村両先生と小野とが御世話をした。との報告があり、総

会においては右のように議題も多く、活潑に討論も行われました。

午後三時半よりは同所において新入会員の歓迎会を催し、新旧なごやかにビールやジュースで盃、心ばかりの土産が新卒者に渡され、四時すぎに終り、やがて新宿からロマンスカーで待望の箱根山に向った。

総会での緊張はすっかりほぐれて、一同子供の修学旅行よろしく和気靄々とキャンデー等を頂きながら快談しているうちに湯本に到着。バスにゆられで行き、スカイラインコースで駒ケ岳と芦の湖を遊覧した。ロープウェイよりの眺めはまた格別で、ゆらりゆらりと青々と繁った木々の山腹を芦の湖めざして下降する。少しも恐ろしくない。湖畔で諸姉の記念撮影をさせて頂き、専用の湖上遊覧船で芦の湖をわたり、昼食後自由行動となった。

日頃、都会の喧噪の中に過して、いつとはなく落着きのない人間になっている私にとって、まことに思いがけない休養の時となった。参加された諸姉も箱根山を満喫された事と思う。このように楽しい旅のできたのは箱根で開業されておられる福永先生の周到な情のこもった色々の御準備があったことを思い、平素非常に御多忙であられるのに多くの時間を私共のためにさいていただいた事、有形無形の御尽力に対し紙上を借り感謝申上げる。また次の機会に楽しい日本女医会の懇親会が行われる事を願い、日本女医会々員の御健康をいのりつつペンをおく。

→（青葉繁る箱根山にて……）
中西理事撮影

つつ夜霧の箱根路を松坂屋ホテルへ……。福永先生の御指定の旅館であったので、まことにサービスもよく豊富な涌出量をほこる温泉であった。湯にひたった後大広間の懇親会場にゆき、山海の珍味に舌鼓をうちつつ逗子の中村先生の「王将」、若林先生、小原先生の踊り等、なかなか平素はみられない面白さであった。散会後は各自の部屋でゆっくりと楽しく夜の更けるまで語りあった。翌朝はバスで駒ケ岳のふもとま

愛の灯をかかげる……

川那部喜美子

菊川益恵氏は現在、鳥取県下、用瀬（もちがせ）町で自宅開業の方であります（昭和十六年、大阪女子医専卒業の加多乃会々員）。今、ここでご紹介いたしますのは、彼女が多忙な開業医生活の半日の時間と精力をさいて、盲生徒と死刑囚とのための愛の活動にあて、すでにたたうべき成果を挙げていられることについてであります。

かつて日刊の大新聞の全国版に大きく報道されたこともありましたが、昨年末にはじめて岡山市国富に在住のU氏から菊川女医の活動に関する参考文書をいただき、その後数回にわたって種々の資料の送附を受け、少からぬ感動を覚えました。すなわち、その中には、菊川女医に対する協力の立場に在られる前記のU氏をはじめ、岡山県盲学校のK校長の玉稿、菊川女医と盲児あるいは死刑囚、又、盲児と死刑囚との間に交された書信、感想文、新聞や機関紙掲載文の抜すい、講演の録音テープ等が含められていました。

K校長は、盲児の生活と点字飜刻による文書の関係が如何に切実、且つ、重要な問題であるかということ。そして、この仕事は文字の読める常人にとって、いかに強い愛情と忍耐が要る困難なものであるかということを切々と訴えておられる。その難事が、菊川女医の熱意を通して生きる月日の限られた死刑囚達によって、見知らぬ盲児達のために、心をこめて実行され、驚くべき冊数が完成されて贈られているのであります。そして、貧しく恵まれぬ盲児達と、それら囚れの人達の間に、明るい愛と感謝、思いやりに充ちた心の交流が生ました。それは、鳥取、岡山、福岡、堺等の刑務所への訪問、鳥取、岡山の盲学校への講演による慰問激励、あるいは地方婦人層啓蒙のための再三の講演の旅など、すべて菊川女医の深い人間愛、強い母性愛に根ざす活動によるのであります。

光に恵まれぬ彼等のための愛の灯は、菊川益恵氏によって点じられ、志を同じうする人達の協力によって、その光輪はより大きく、明るくなされつつあるのであります。

盲学校の火災を知って、点字図書の焼失による盲生徒の難渋を思いやる囚人の心。クリスチャンでなくとも、どうぞ神のことばがあなたの心にいつまでも消えぬように、と囚人への書中に祈りをこめている盲児の心、又、詩の点字本を喜びながら、更に控え目な表現をもって、スリラーものの飜刻を贈り主の囚人にねだっている盲児の手紙など、全く心を打たれた次第であります。菊川益恵女医が心に抱くと述べていられる「天には星、地には花」の、かの武者小路実篤氏の言葉そのままに、「人には愛」が、清らかに輝かしく開花したのであります。それが最も必要な人々の胸の中に……（加多乃会機関紙「おとづれ」より）

国際女医会講演内容報告

小野春生

フィリッピンで開催されました国際女医会総会の講演内容を、先日の日本女医会総会で御報告申上げる予定でございましたところ、時間がございませんでしたので、ここでごく簡単に発表させていただきます。

一、親教育とは何か
コーナー（英国）

子供の育て方は歴史から見ると、その国によって異り、又、時代によっても異る。二十世紀においては主力が子供の知能及び感情の発育と、幸福な又有意義な一生を送る権利におかれている。一九五九年国連で定められた子供の権利に各国の親の義務がうたわれている。多くの国では肉体的な子供の要求を全部全うされているが、精神的な面、すなわち家庭に対する安全感を与えることにより学校へ、又は、社会へ出た時に人と円満に交際ができ、よき結婚生活を、又、良き親となるように育てる必要がある。ハイタワーが言ったごとく、「人類の幸福を目的とする社会を作るような人間を育てるのである。

二、親教育をなすべき医者の教育
ドッヂ（米国）

親教育の必要を述べ、医学校で医学ばかりでなく対人関係の教育をする必要性を述べた。

三、親教育を必要とする公衆の教育
マクファーラン（オーストラリヤ）

歴史について述べた。（特に面白いと思ったのは）学校で子供に衛生に関して教えると家に帰り家庭で実行する。家庭の衛生に対するスタンダードが向上する。しかし、親は常に子供を指導し、誘導すべき立場にあるのに、不幸にして子供の方が知識が親以上になることがある。そうなると子供は親を馬鹿にし、不良化する第一歩ともなりうる。

四、専門医と家庭医の協力
ウァリス（ドイツ）

家庭医は専門医の意見を必要と認めたらすぐに廻す必要があること。専門医も協力して家庭医を通して親を教育する。

五、性教育をする親を医者がいかに教育するか。
トラヴァジェー（フランス）

子供に正しい性教育をする様、親を教育する必要性について述べた。

六、病気予防及び治療に対する親教育
バティヤ（インド）

（主にインドの話をしたため、大変評判が悪かった。国際女医会の講演は一般的に世界各国の事を話し、自分の国の報告のみをしてはいけないようである。）

七、健全なる子供の健全な親の教育
クリスチァンソン（デンマーク）
医学はとかく病気の人を対象とし、健康な人を忘れがちである。円満な社会人は、主に円満な家庭で育てられる。子供に無理な要求をせず、素直な立派な社会人になるには如何に育てたらよいかについて面白く述べた。
以上簡単にのべましたが、もし原文をお望みの方は、御申出下さればタイプを打って御送り致します。その際は若干の手数料をいただきます。

北海道支部だより

中川甲子

お暑さの砌り皆々様にはますます御健勝に御活躍の事とお慶び申上げます。過日は本部総会の議事その他を詳細におしらせ下さいまして厚く御礼申上げます。当支部総会は六月二十三日（日）、市民会館において開催、出席者三十名にて学術映画と北大小児科講師梶井正先生の「サリドマイド児の臨床的観察」と題する講演を承り、その後総会を開き、支部会則の一部改正、役員改選を行いまして、支部長・今鷲子（至誠会）副支部長・中川甲子（鶴風会）原田清子（至誠会）相沢芙蓉（札幌医大）理事七名、監事一名を定めました次第で、会費十ヵ年分前納の件は特によくお願いして置きました。今後の女医会のあり方については、本部のアンケートのまとめを見ました上で、支部でも考える事とし、当支部としては、もっと魅力のある楽しい会に皆んなで育てて行こうという事になり、この度の会を開くに当っては、地元の札幌女子医専（札幌医大前身）出身の諸姉が、大そうお骨折り下さいました。毎年三月には新卒女医歓迎会を開き、女医の卵の方々を激励して来ました。今回の総会には、毎日新聞その他から取材に来られましたが、会員の親睦と教養を高める集りというだけでは淋しいものと思い、特色ある会にするにはどうしたらよろしいでしょうか。今後連絡事項は、北海道岩見沢市五条西五丁目今鷲子先生にお願い致します。御礼が遅れまして申し訳ございません。写真御笑覧下さい。
諸先生の御健康を遥かに念じて。
（七月五日）

【写真説明】前列右から、中根敏得、浜田幸江、原田清子、今鷲子、中川甲子、安藤清史、山口とも、藤山敦子、水島淑子。
中列右から、田村登輝子、山吹ウメ石雲さかえ、高木和子、高須祐子、善野ツネ、瀬戸万寿子、武田和恵、三谷桂子、今野タイ、木村美恵子、伊藤チヨ、相沢芙蓉、陳内鶴江、松尾政子、九津美章子。
後列右から、庄司礼子、柴田夫佐、吉尾喜美子。

宮城県支部総会の記

長池博子

御無沙汰致しておりましたが、天候不順な折から、本部の皆様お元気でいらっしゃいますか。本部の動きは日本女医会誌で拝見しておりますが、当地でも別紙のように支部会を致しましたのでお知らせ致します。なお、一年一回の総会の他に（年一回ではお顔とお名前も一致せず、お親しくもなれませんので）毎月例会を開いております。第三水曜日午後六時から九時まで、必ず六時に集らなくとも三時間の間に出ればよいことにして、三水会と命名致しました。なかなか楽しいたべる会でもあります。とりあえずお知らせまで、

日時　六月二十九日（土）午後三時より
会場　東一番丁　ブラザー軒
会費　参百円、懇親会費　壱千円
特別講演「米国留学より帰りて」
東北大産婦人科教室　福島峰子

宮城県支部が結成されてから五回目の総会を次のような次第で開催致しました。生憎日医の医学補習講座と重りまして、出席会員は二十名。

議　題
一、本部同様会費徴収の件、値上げよりも会員から徴収するために、仙台市内は学生アルバイトに依頼し、地方は薬屋の販売員を利用することに決。
二、会員たることを誇りに感じるようにしたい。もちろん内容的な問題も大切であるが、ついては日本女医会のバッジを定めて（ロータリークラブのごとき）必ず胸につけたらどうだろうか。一応当会会員菅野喜与姉（独立美術会員でもある）にデザインを一任することに致しました。
三、その他、会の若返りについて種々話合いましたが、今回も市内の若い女医三十一人に呼びかけて、十五人入会されました。
仙台市医師会に全員入会してほしいとの要望に答えて、既会員以外は全員入会致しました。
特別講演をして下さった福島峰子女史は、昨年五月一日よりの米国コロンバス大学で内分泌学を研究、去る六月七日羽田着で帰国なさったばかりの将来を期待すべき女医のホープでございます。東北大産婦人科九嶋教授の下でなお研究をつづけていらっしゃいますが、米国における女医の活躍や医療の現状等かいつまんでお聞かせ下さいました。更に三百枚の天然色スライドで米国留学気分にさせて頂きましたが、やはり女医ならではのセンスに満足致しました。総会で時間が超過、直ちに懇親会に移りましたが、仙台市医師会より理事一人出席、目下の医師会の内情説明などございましたが、女医の活躍が日本医師会になくてはならぬ存在になって行き度いものだと考えております。話がつきず、八時にようやく散会致しました。

会費十年分前納者氏名

（加多乃会）
近江　久子　　辻見　恵
（鶴風会）
星野　礼子　　佐堂　とき
宮本　なを　　尾形登美子
中原由美子
（至誠会）
小栗　元　　荒川　あや
井出　ひろ　　樺島　政尾
佐藤　カネ　　岡本さかき
川野辺　静　　山崎倫子（前回半額納入）

会費五年分前納者氏名

（至誠会）
北沢あさを　　哲翁たまよ
柳田　阜　　哲翁富士子

○星野礼子氏は三十七年九月納入済でしたが前回記載しませんでしたのであらためてお詫び申し上げます。
○なお、日本女医史（一冊九百円送料共）御希望の方は本部まで御申込下さい。
○十年分前納会費納入に御協力下さいますよう重ねてお願いいたします。本年度まで会費納入済の方には振替用紙同封されてありません。
○六月十六日の評議員当日、茶色の上着をお忘れになった方は本部まで御連絡下さい。

編集後記

暑さことのほか厳しき折柄、お忙しい日々をお過しのことと存じます。多彩な行事を伴った第八回日本女医会総会も盛会裡に無事に終り御同慶に存じます。七月廿七日午後四時三十分よりの第十四号会誌の編集会は、福田先生御病気のため、今回もお顔見えずやや淋しい感。お多忙の中を御寄稿いただきました諸先生方に厚く御礼を申上げます。
編集に当った者が誰しも感じる事ですが、お読みになりましてからどうか御希望やら御叱責やらどしどし下さって一層の御支援をお願いいたします。この会誌がささやかながらも皆様の親睦を計り、皆様に愛される会誌となることを係一同期待しております。
（森　千鶴）

昭和三十八年八月十五日印刷
昭和三十八年八月二十五日発行
編集人　福田
発行人　日本女医会幹
発行所　東京都新宿区市ケ谷河田町19
印刷所　東京都港区麻布田島町63　日本女医会
福田印刷株式会社
題字（故吉岡弥生）